

・・・今日も快晴!・・・
トラックドライバー
日誌

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第12話
安全教育は
最大の福利厚生活動

いよいよ
 3月・・・
 年度末を
 迎えました

繁忙期の安全対策

この時期は荷主さまをはじめ多くの人が慌たしくなります
 そうなるとどんなことが想定されますか？

忙しいと商品の確認ミスや周りに潜む危険が多くなり
 事故の発生リスクが高くなりますね

何度も確認しないと

荷主さまからの出荷量が多くなり荷待ち時間が増えたり・・・

ハラハラハラ

それに配送先までも入荷車両が多くなり待機時間が増えたり・・・

もんもんもん

運行回数が増えて疲れも出たり・・・

うれしい悲鳴だけど！

あ！

綾瀬 小陽 (23)
 トラックドライバーに憧れ業界の門をたたいた、明るく元気なドライバー。2年の経験を積みまだまだ覚えることは多いが、先輩に指導することも増えてきた。

忙しい時だからこそ心身の状態を安全にしておくことで交通事故を起こさない巻き込まれない！

だから「交通事故に遭わない防衛運転を！」
 ですよね
 山岡課長

その通りです

では今日のミーティングを終わります
 繁忙期もご安全に！

ご安全に！

安全教育か、でも僕は長らく交通事故を起こしていないですよ

事故を起こした人だけが参加すれば良いんじゃないですか？

それは違う！

安全教育は罰則のためじゃない！
 みんなの人生を守るために行っているんだよ！

私も何年もこの仕事をしてますが安全教育は家族や定年退職後の人生も守る会社最大の「福利厚生活動」といえます

ぼ：僕も引き締めます先輩！

うん

綾瀬もすっかり先輩だな

次で「安全教育を実施する意味」について解説!

最上級の運転マナーを発揮しよう!

“もらい事故は仕方がなく防ぎようがない”とあきらめる前に、「最上級の運転マナー」を実施していますか?



交通事故を起こさずに、加害者にならないための安全運転は、「交通ルール」を守ることから始まります。一方で、交通事故に遭わずに被害者にならないための防衛運転は「運転マナー」を高めることから始まります。交通ルールを守るとは最低限の行動であり、「最上級の運転マナーを発揮」することで、「防衛運転が成立」するのです。守るべき交通ルールは法律で定められていますが、運転マナーは「自身で決めて取り組む項目」であることから、防衛運転とは安全運転以上の安全行動といえるでしょう。

会社として、自社のドライバーには「加害者はもちろん被害者にもなつてほしくない」との思いから、安全の教育機会を作るべきです。すなわち、本来の安全教育とは事故の罰則ではなく、ドライバーへの「愛情表現」であると位置付けられるのです。

安全教育は事故の罰則ではない

安全教育はマイカーを運転する機会にも役立つ

業務中だけでなく、休日に家族(友人・恋人)を乗せて運転する時にも、安全教育は役立ちます。



通勤時や業務中だけでなく休日にマイカーを運転する場合は、家族を乗せることも多いでしょう。そうした時でも、職場で学んだ防衛運転を含む安全運転の考え方や安全確認の技術を発揮すれば、自分も家族も守ることができます。

また、大半の方が定年後も運転を続けるでしょう。業務中の無事故の達成にとどまらず、社員の家族や定年退職後の人生も守る安全教育こそ、まさに企業にとって「最大の福利厚生活動」です。年次で開催される消防訓練と同じく、年に1度はイベント型の安全教育を実施しましょう。それが、さらに効果が見込まれる毎日1分以内の習慣的な指導へと発展していくのです。

家族も、退職後の人生も守る福利厚生活動

防衛運転で健康や生活を守る!



「防衛運転」で事故を起こさない、巻き込まれない

道路には、運転免許取得時や、数年に1度の更新時にしか安全講習を受けていない「一般ドライバー」が多くいます。

だからこそ、プロドライバーには「安全教育」が大切になります。

マンガ制作: ad-manga.com

健康や生活を守る防衛運転を

企業活動における最大のリスクは、職場の設備や労働環境に起因して社員の「健康や生活が損なわれる」ことです。企業はそのような事態を回避すべく、さまざまな防衛や改善活動を実施しなければなりません。身近な例として、工場など多くの人が働く職場で、定期的に行われている消防訓練や避難訓練があります。

ところで、「火災」と「交通事故」が起こりうる被害の大きさはさて置き、年間発生件数ではどちらが多いのか?やはり交通事故の方が多発しています。

プロドライバーの皆さんにとって、交通事故も健康や生活が損なわれる要因のひとつです。先に挙げた訓練や、健康診断を受診するのと同じく、定期的な交通安全講習会を実施し、「事故を起こす前」の安全への取り組みを考えてみましょう。例えば、「防衛運転」をテーマにすれば、加害者はもちろん、もらい事故に巻き込まれるといった被害者になることも避けられ、自分の健康や生活を守る運転を再確認できると思います。

安全教育はドライバーへの愛情表現

「加害者にも被害者にもなつてほしくない」という思いから、防衛運転を含む安全教育は実施されているのです!-